事例No.	3678
公表年度	R7
団体の属性	一般市
団体名	長野県伊那市

事例区分	広域連携

タグ	・事務の共同実施 ・歳入確保 ・観光

事例種類	環境・生活衛生

事例内容・タイトル

関係機関連携による高山動植物のシカの食害対策

出典

地方自治研究機構　先進事例調査研究（令和7年度）

関係機関連携による高山動植物のシカの食害対策

取組のあらまし

取組団体　南アルプス食害対策協議会（伊那市）ほか

取組内容　高山帯及び亜高山帯の厳しい自然環境に適応した動植物（氷河期の遺存種、固有種、希少種、分布の南限種等を多く含む）をニホンジカ等の食害から守るため、南信森林管理署、長野県、信州大学農学部、伊那市、飯田市、富士見町、大鹿村から成る「南アルプス食害対策協議会」を設立し、防鹿柵の設置やシカの個体数調整などの対策を実施している。

推進体制　48 名（令和７年度）

予算等　10,500,000 円（令和７年度）

1　長野県伊那市の概要

人口　64,702 人　令和７年４月１日現在（住民基本台帳人口）

職員数　502 人　令和７年４月１日現在（一般行政部門：教育部門等の事例は各々の人数）

総面積　667.93 ㎢　令和７年 10 月１日現在（国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」）

図表 1　南アルプス国立公園の見どころ

出所：環境省ホームページ

２　取組の背景・目的

(1) 南アルプスの概要

日本アルプスと呼ばれる山々がある。新潟県、富山県、岐阜県、長野県にまたがる北アルプス、長野県南部に位置する中央アルプス、長野県、山梨県、静岡県の３県にまたがる南アルプスである。

南アルプスは、甲斐駒・鳳凰山系、白峰山系、赤石山系の３つの山系から構成され、日本で２番目に高い北岳をはじめ、仙丈ヶ岳、塩見岳、赤石岳など 3,000m級の高山を十座以上有する山岳地帯である。これらは非火山性の山々で、東西方向の圧縮を受けた急速な隆起によってできた。また、北アルプスや中央アルプスに比べ、積雪量が少なく森林限界の標高が高いため、稜線付近まで森に覆われている特徴が見られる他、日本で氷河が存在した痕跡のある、もっとも南に位置する場所となっている。

ア 南アルプスの動植物

およそ標高 1,600m付近までの山地にはブナをはじめとした広葉樹林、標高 2,700m付近までの亜高山帯にはシラビソなどの針葉樹林、それ以上の高山帯ではハイマツ帯や花畑が広がっており、亜高山帯と高山帯の境目付近にはダケカンバ林が発達している。また、キタダケソウ、チョウノスケソウ、タカネマンテマ、ムカゴユキノシタなどの氷河時代の遺存種や、タカネビランジ、キタダケキンポウゲ、サンプクリンドウなど、南アルプス及びその周辺地域の固有種も見られる。

このように山深く原生的な森林が残されていることから、そこに住まう動物たちも多種多様である。ツキノワグマ、ニホンカモシカ、ホンドギツネ、ニホンザル、ホンドオコジョ、ライチョウなどが確認されており、特に、国の特別天然記念物に指定されているライチョウは南アルプスの南端の光岳を分布の南限としている。

イ ニホンジカによる食害

南アルプス周辺における二ホンジカの生息数は増加の一途をたどっている。中山間地域での農作物への被害、森林帯での植林地への被害が後を絶たない他、1990 年代末からの積雪量の減少等の理由により生息域が拡大したことにより、夏期の高山帯でのシカ個体群が定着し、ダケカンバ林の発達する高山帯及び亜高山帯においても大規模な食害が認められるようになった。

3　取組内容

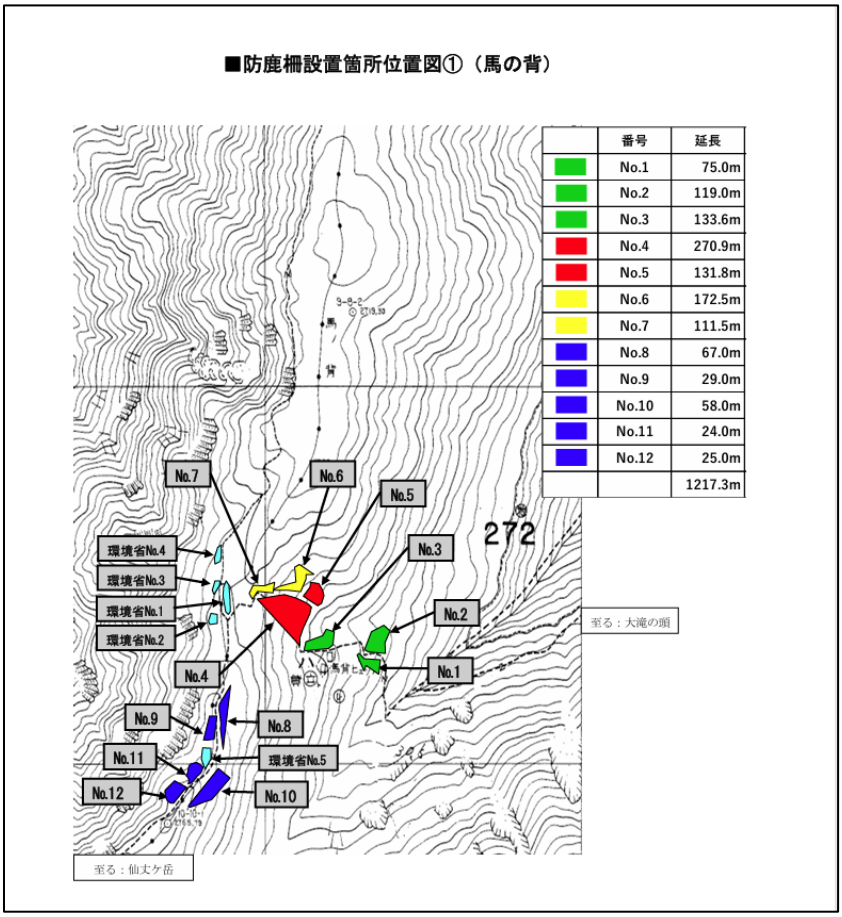
(1) 南アルプス食害対策協議会

貴重な高山植物をシカの食害から守るため、南信森林管理署、長野県、信州大学農学部、飯田市、伊那市、富士見町、大鹿村から成る「南アルプス食害対策協議会」は、平成 19 年９月に設立された。現在は環境省をオブザーバーとし、関連機関及び地元ボランティアとともに活動を続け、被害の実態把握や食害対策事業を実施している。

ア 防鹿柵の設置及び撤去

南アルプス食害対策協議会は平成 20 年に最初の防鹿柵を仙丈ヶ岳の馬の背（両側が切り立って崖になっている狭い尾根のこと）の３箇所へ設置した。活動を続けていく中で柵の範囲も増え、令和５年までに馬の背エリアと小屋直下エリアに合計 16 箇所、距離にして 1847.3mにも及ぶに防鹿柵が設置されるまでになった。なお、防鹿柵は例年７月初旬に協議会と有志のボランティアによって設置され、雪害から柵を守るため、遅くとも 10 月には撤去を行う。

図表２　防護柵設置箇所位置図（一部）



出所：伊那市提供

イ 各機関との連携

環境省、信州大学農学部、猟友会、それぞれが有する知識によって南アルプスの豊かな自然を守るため、連携している。

① 環境省

環境省は、協議会での取組と併せ、平成 20 年より馬の背に防鹿柵を設置するとともに、ニホンジカが山頂付近まで進出してきていることを踏まえ、現存する花畑を保護するための防鹿柵を設置した。

② 信州大学農学部

食害が確認されているエリアにモニタリング調査による植生回復の推移の研究を平成20年より実施し、優先的に回復が進んでいる植物や、エリアごとに優占度の高い植生等の推移が判明している。

今後は、植生群を踏みつけずに調査することのできるドローンを活用した調査方法も試験的に取り入れていく。

③ 猟友会

協議会内の自治体に属する猟友会（飯田猟友会、長谷川猟友会、大鹿村猟友会、富士見町猟友会）は、協議会からのニホンジカ捕獲業務を受託し、11月から２月にかけてシカの個体数調整に寄与している。

(2) 南アルプス（伊那谷エリア）山岳環境保全連絡協議会

伊那市、飯田市、大鹿村、林野庁、環境省、長野県、山小屋関係者、山岳団体、遭難対策協議会、関係団体から成る「南アルプス（伊那谷エリア）山岳環境保全連絡協議会」は、令和７年２月に設立され、伊那市長が会長を務める。

南アルプス（伊那谷エリア）山岳環境保全連絡協議会では、令和７年６月より、山岳環境の保全及び適正利用の推進を図るため「登山者協力金」を開始した。登山者は任意の口数（一口 500 円）を協力金として支払い、協力金は①登山道の維持管理・道標の整備、②高山植物の保護（ニホンジカによる食害対策など）、③携帯トイレの普及、④登山安全対策などに使用される。

協力金は、現地での現金払い以外にも二次元バーコードからの電子決済が可能で、協力の証として登山者協力証が授与される。登山者協力証の表面には南アルプスの山々が描かれており、裏面には登山者の心構えが掲載されている。表面の絵柄は毎年変更される予定であり、コレクションとしても楽しむことができる他、登山者協力証を見せることで市内一部の日帰り温泉で割引を受けられる特典などがあり、登山者の自主的な取組に対する感謝の気持ちを表するため様々な工夫が凝らされている。

図表３　登山者協力証

表

裏

出所：南アルプス（伊那谷エリア）山岳環境保全連絡協議会ホームページ

4　成果・課題

(1) 取組の成果

これまでの継続した取組によって、柵設置当初と比較すると、マルバダケブキ、クロユリ、ヨツバシオガマ、ミヤマキンポウゲ等の植生回復が認められた。一方で、ニホンジカの高山帯への進出には歯止めがかからない状況がある。

そうした中で、南アルプス食害対策協議会の他にも、南アルプスの植生を保護するための様々な取組がなされており、伊那市長が会長を務める「南アルプス山岳環境保全連絡協議会」では、令和７年６月より、山岳環境の保全及び適正利用の推進を図るため「登山者協力金」の取組を始めた。

(2) 今後の課題

植生回復は簡単なことではない。関連団体の継続した努力により南アルプスの植生は回復傾向にあるが、一度でも防護柵の設置を怠れば、あっという間に裸地の状態へ戻ってしまうことは明らかである。

南アルプス食害対策協議会等では、回復した植生を守るためには、継続した防鹿柵の設置と、ニホンジカの生息数を適正に管理するための取組が不可欠であるとともに、一般の登山客などにも、シカによる食害と協議会による取組を広く周知し、協力を求めていくことが今後重要になるものとしている。

関連・参考資料

地方自治研究機構『自治体法務研究 No.77 2024 夏号』p.46-48
環境省ホームページ「南アルプス国立公園」

https://www.env.go.jp/park/minamialps/point/index.html
伊那市ホームページ「南アルプスの貴重な高山植物保護活動」
https://www.inacity.jp/sangyo_noringyo/noringyo/yugaichoju/kouzansyokubutsuhogo.html
南アルプスユネスコエコパーク「南アルプス食害対策協議会」
https://www.minami-alps-br.org/travel_guide/detail/location_06/activities/activities04.html
(2) 南アルプス（伊那谷エリア）山岳環境保全連絡協議会ホームページ「登山者協力証」
https://minami-alps-inadani.jp/certificate/